

南陽市第4回自分ごと化会議 議事録

1 開会

2 全体協議（石井コーディネーター）

（石井コーディネーター）

どのくらい中学生が登校しているかという話を学校教育課長にしてもらいたい。スクールバスの路線図を前のホワイトボードにつけてもらった。宮内中のスクールバスがかなり奥まで行っていると大体の地域間は皆さんも分かると思う。

（学校教育課長）

宮内中学校については、統合した吉野中学校があった地区の生徒が10名前後スクールバスで登校している。沖郷中学校は梨郷中学校のあった地区の子供が20名程度通っている。赤湯中学校は中川中学校があった地区の20名程度生徒が通っている。いずれの地区も45人乗りの中型バスを使用している。このバスは、部活や行事でも使用している。それぞれ大体30分前後で中学校まで来ることができる。スクールバスは専用車両で、一日中使える。急な帰宅にも対応できる。

（石井コーディネーター）

今後、統合していくことになった場合、通学区域が広がり、今まで4キロだった人が5キロになったりする。このあたりの状況も変わってくるのが考えられるため、先にお聞きした。よくスクールバスで話題になるのが、帰りが部活等により人によって変わってくるため、時間が合わなくて歩いて帰る人がいたりするという。そのあたりはどうか。

（学校教育課長）

吉野地区では、市民バスが走っているのでそれに乗って帰ることもあると聞いている。

（石井コーディネーター）

スクールバスが原因で部活動が制限されているということはないということ。他に出ていない話題として、建物の話がある。今、それぞれ3中学校がある中で、10年後に統合するとしたときに、ここにあった方がいいんじゃないかという場所のことだとかを聞いておきたい。前提として、建物の状況と、もし統合するとなるとどうなるかを聞いておきたい。

（管理課長）

いずれも40年を超えている。鉄筋コンクリートのため、70～80年は保つといわれているが、必ず保つかは分からない。令和2年時点で劣化状況を調査した結果、赤湯中・沖郷中は広範囲に劣化しており、一部早急な対応が必要ということだった。宮内中は比較的新しいので、現段階では

問題ない状況。建て替えについては、議論しておらず定まっている方針というものはない。

(石井コーディネーター)

宮内中学校が新しいから、そこに集約するという事は可能か。

(管理課長)

人数の問題がある。もし、現在の人数で統合しようとするとの学校でも対応できない。

(石井コーディネーター)

物理的な部分で、こんな中学校がいいな一という意見はなにかあるか。

(委員自由発言)

学校生活の話はしても、校舎のそのもののことはあまり考えたことはなかった。

(委員自由発言)

市民体育館だとか、市民文化会館のような既存の施設に行きやすい場所に中学校があるといいなと思う。部活動で使う学校の施設が埋まっても市の体育館が使えるし、文化系の部活でも同様。

(委員自由発言)

もし万が一災害が起きた時に、他の地域から避難してくる人を受け入れることが出来る余剰を作っておいたらいいと思う。東日本大震災で実際に南陽市に避難してきている人もいる。

(石井コーディネーター)

体育館や市役所の近くだと電車通学はありうるのか。

(学校教育課長)

今は電車通学の人はいないが、可能だとは思う。

(委員自由発言)

統合になった場合、登下校の問題が大きいと思う。市民バスの利便性がよかったりする場所がいいと思う。そういったところで不便にならない仕組みづくりもしてほしい。

(石井コーディネーター)

仮定の話ではあるが、人数や場所によっては、便数を増やす必要があると思う。赤湯中学校と宮内中学校のバスは今年更新する予定。

(委員自由発言)

利便性の面で、市の施設が使えると良いなと思った。出身の鶴岡市では、市の施設の近くに高校があつて便利だった。このように環境としての場所は良いと思うが、徒歩で来れる人が少なくなつて、自転車やバスの人が増える。冬場の通学が大変だと思う。そういった時期に、バスの本数を増やしたりする必要があつたりすることが課題になるかと思う。冬は送迎の車でいっぱいになつたりという問題もあると思う。1つにするというのはやっぱり難しいなと思った。

(管理課長)

もし統合するんだつたらどうするかという話を聞きたいと思っているので、今日、場所をここだと決めるわけではないので、今のように色々なことを話してもらいたい。

(管理課長)

漆山地区の子は冬のみバスで送迎している。夏場は、自転車で移動している。

(石井コーディネーター)

【提案書について説明】

・提案1について

(石井コーディネーター)

私の子供の小学校では、PTA と学校の事務職さんがサマースクールみたいなものを実施していた。体験型のプログラムを企画していて、地域の大人と一緒に体験できるということをやっていた。こういったことも故郷の誇りとかに繋がるかなと思う。地域の人たちとの結びつきがあるといいかなと。

(委員自由発言)

畑を去年作つて、植物や野菜や花を植えているけれど、これは小さいころ自分が経験してきたからやれる。今の子供たちは携帯やスマホで自然に触れる活動をしていないと感じる。もし、そういったことに興味があるのであれば、私も指導できるかなと思う。あとは水泳もやっているのので、市民プールで子どもたちに教えることは可能。しかし、私は古い人間だから、今の時代の価値観と自分の価値観がかなり離れているかもと勝手に思っている。そういったことが分かれば、なんでも協力できる。

(石井コーディネーター)

たしかにニーズって分からない。学校との間に中学校のこともわかり、地域のこともわかる人がいて、その人がコーディネートしてもらえるように繋げてもらえるかと思う。

(学校教育課長)

地域学校協働活動という制度があって、各学校に推進員という方を配置している。学校のオーダ―や地域の支援をマッチングして取組みを進めている。学校支援ボランティアということで、小学校では見守り、読み語り、家庭科のミシンの使い方の指導の補助など活動が広がってきている。まだ始まったばかりだが、手探りで進めている。

(委員自由発言)

自分も委員をしている赤湯小学校では、マッチングまではないが、梨郷小学校は規模が小さいので、地域の方と距離が近いので、一言声をかけるだけで割と簡単に人が集まる。助け合いみたいなことは、小さいところほどできる。子どもが少ない中で同じ校舎を掃除しなければならないということで、定期的に大人(保護者 OB)に声をかけて掃除のためだけに平日の日中に掃除をしていたり、学校の花壇の手入れをしたりしている。参加するハードルを下げることで、地区の人が介入してくれて、1人がいくつものボランティアに登録していて、その日の状況に応じて活動してもらっている。地域とのマッチングは小さい規模の方が良くできている印象がある。みんな顔見知りでお互いが知り尽くしている関係性なので、お願いもしやすいし答えてあげたい気持ちになるのだろう。大きい学校は知らない相手なので、誰に声をかけていいか難しい。

(石井コーディネーター)

今の話は、先ほどの話で、もし中学校が統合すると、物理的な距離も離れるが、人々の繋がりや気持ちも距離も離れてしまうということになってしまう。自分の通っていた校舎じゃないし、知らない人から電話があっても、中々協力しないという事になっていくかもしれない。

(同上委員自由発言)

自分が子供の時は保護者であっても行事のときにしか学校に来なかったが、どんどん地域のネットワークで特異なことがある方にきてもらって、学校と地域の人をうまく繋いでいくということが、今よりも容易に出来たらいいと思う。

(石井コーディネーター)

今の話で、小学校と中学校で違うか。

(学校教育課長)

荻小学校では、これまで南陽市は小規模校のメリットを最大限に生かして、地域資源を存分に活用して子供たちを育ててきた。しかしながら、現状将来を見通すと、小規模校のメリットを生かした教育より、デメリットの方が上回ってしまうことが見えてきた。じゃあ将来どうしようかという議論を重ねたときに、一定の規模の学校に行った方がいいよねということで、統合になった。これからは地域の捉えや学ぶフィールドをどんどん広げていく必要がある。教育財産も増える

ことになる。荻小学校でやっていたワラビ取りを、統合後は宮内小学校の子たちもやるようになった。中学校はもともと統合していたので、今回の小学校が合わさったことによってそのメリットを再認識できるのではと考えている。

(石井コーディネーター)

故郷というキーワードでどれだけ地域と関わられて、どれだけ活かせるか。今のお話を付け加えていこうと思う。

・提案 2 について

(委員自由発言)

私が小さい頃は学校を増やすという議論があった時だった。その当時、米沢市の北方面が開発されるということで第4中学が新しくできた。統合するには通学の距離も大事だが、学校面積の土地を確保することも時間と労力がかかるなど感じた。新しく学校ができたときにマイナスの面もありながら、そこで学んできた。私の中学校には新しい中学校なので、伝統というものがなかったが、校舎とかグラウンドに対して上級生から大切に使ってほしいと厳しく言われていた。今考えると、新しくできた学校は不安がいっぱいだが、そこに入って自分たちで歴史を作り後輩たちに繋げる三年間は充実していた。色々なものを増やしていった時代と真逆のことが起きている今の時代の変化や流れに自分の価値観がついていかない面もあるが、地域の一員としていろんな経験をしているので、支援をしてくださる方のところに登録していくことが重要。自分の孫が丁度、統合するであろう年にあたるので、時代にあった学びをしながら、いろんな人がいると思うので、地域の人も協力してするのも、やれる方だけでもやっていくといいと思う。子どもたちが社会に出ていく時にいろんな経験をさせてあげたい。南陽市に住まわせていただいているので、自分ができることはボランティアに協力させていただきたいと思う。安心できる南陽市の風土を活用して行ってほしいと思う。

(委員自由発言)

中学校時代や子供たちの学び自体が南陽のブランドになるという理想像が重要だと思う。少子化時代をポジティブに考えた場合、人が少ないからこそ団結することができる。より子どもたちに近い場で活動ができる。そうすると学校の活動や部活動に地域の繋がりが深くなって、生徒のやってみたいという気持ちが上がっているいろいろなチャレンジして部活動の質やレベルが向上していくと思う。全国大会で良い成績を残したりすると、子どもたちの学びが全国でPRされて、南陽市のPRに繋がれば、交流人口が増えたり、他の地域の人たちと切磋琢磨できたりするので、この辺の一連の流れが大切だと思っている。それが、郷土愛にもつながるし、町全体で子どもたちをバックアップしていくことにもつながっていく。そういったことを見据えてもいいのではと考えている。

(石井コーディネーター)

それは、誰が主体で進めれば良いと思うか。

(同上委員自由発言)

部活動の指導者の確保や拡充の課題があるので、一概に決められないが、地域の中でできることは協力していくべき。学校などの専門性が必要であれば、教育委員会や学校の中でやらなければならない。まずは何をやりたいか、何を軸にして発信していきたいかを生徒中心で考えて、それを町が拾っていくことが大切かなと。僕自身は柔道をやっていたので、スポーツで貢献したい。そういった経験を伝えていきたい。将来的には中学生や地区の子供に対して、柔道を通じて何かを伝えていきたい。

・提案3について

(委員自由発言)

提案1の地域の協力のところと合わせて、なかなか学校にいけない家から出られない子供がギターに興味があって、そこに誘った結果、交流ができたということがあった。クラスの枠を外した時に学校に行きやすいのかなと思って、一人一人と向き合うことができるのかなと思う。

(石井コーディネーター)

多分それを学校や相談機関だけでやるのは難しい。でも地域にはいろんな支援があるので、そこにもうまくつなげる事ができれば、地域がその子にとっての居場所になる。そのあたりを町ぐるみでさせていくという事だと思う。

・提案4について

(石井コーディネーター)

先生についても、人材が不足していたりするので、しっかり地域や行政としてフォローしていかないと中学生の環境が維持できないので、ここも大事な要素かなと思う。

(休憩)

(後半開始)

(委員自由発言)

提案2の多様な選択肢は重要だと感じる。中学校は選べないので、例えばやりたい部活ができるといいなと思う。例えば、自分は大きい学校だったのでやりたい部活もできたが、もし部活動に制限があってやりたくない部活をやらなければならないとなると辛かっただろうなと感じる。先生たちも負担であるとも思うし、必ずしもその部活を教えられるとは限らない。そういったとき

に地域移行みたいな形で顧問として地域の人に教えてもらえるといいなと思う。子どもたちにとっては、同じ部活を選んだということで友達関係でも重要だと思うので、そういうのが選べる選択肢が保証されている学校だといいなと感じる。

(委員自由発言)

今までのいろんな話を聞いていたが、子どものことでああしようこうしようと話しているが、子どもにとって今は悲劇でも、人生全体でみれば喜劇だという言葉があって、統合して嫌なことがあって自分が思うようにできなくても、将来笑い話になるかなと思う。学校の伝統とかという話もあるが、子どもにとってはたったの3年の話でしかない。地域の人々には子供たちの将来、例えば南陽市にはこういう仕事があるよといったことをそういうのを見せるイベントを増やしていけばいいなと思う。町のお菓子屋さんに職業体験に行つて、パティシエを志したとして、夢を叶えるために何が必要か知る事、必要なものを提供できる南陽市になって欲しい。その子の将来のきっかけになるようなことも必要かなと思う。今はいやなことあつたら行かなくていいよという時代であるし逃げていいよという時代かなと思うが、それでも逃げてはいけないということも教えなければならない。責任感はどう教えるのか、社会の厳しさも教えるのは中学校程度にはあつてもいいかなと思う。もうちょっと社会を見せる機会があつてもいいと思う。統合してもメリットを考えれば、自分の将来を左右するいい出会いがあるかもしれない。市から見れば、スクールバスや新校舎の整備でお金がかかると思うが、私は統合しても子どもたちはやっていけると思っている。仕事の裏の厳しい部分も見学とかで見せていければ、現実を知つて子どもの考え方も変わるし、もうちょっとそういったことをあつた方がいいと思う。

(委員自由発言)

地域の人たちと子どもの繋がりという点では、近所の方を知らないということもあるので、まずは地域の人たちを知ることから学んで、子どもたちとも接していければと思った。周りの人たちを知らないとは言っていないなと思う。

(委員自由発言)

南陽市でも結構関係性は希薄になっている。周りに中学生がいない。世帯がどんどん変わつて、空き家になっていく。こういう地域にこういう人がいるということも分からなくなつてきている。

(委員自由発言)

どこかに1校作るとなつたとき、例えば、自分が勤めている会社では、5年前社屋を新しく建てる時に土地を購入するためにいろんな人と掛け合つて、そのタイミングでコロナが流行つたため、まだ建っていない。当初は3年で建てる予定であつたが、今まだ整地が終わつたところ。学校規模となるとどれくらい時間がかかるのか。私は統合よりも今の物を維持する方がいい。理由としては、時間がかかるということが1点と、その間に若者を増やすという方向にもついても良

いと思う。そのためには若者を呼び込むためのイベントを実施したらいいと思う。南陽市のグルメフェスティバルをして若者に来てもらったり、マラソンをしたりして、まず人を増やしたい。こういう仕事があるとか、こういう活動があるということ子どもたちに興味を持ってもらうことが大事なと思う。子どもたちを精神的に強く育てたい。私たちの世代は学校がいっぱいあったから、地区大会をしても強い学校が出てくる。県大会の前の地区大会で切磋琢磨してきた。今の子供たちは競わない。すぐ逃げてしまうので、1回はぶち当たってもいいと思う。そこから協道にそれるというのはアリだと思うが、すぐあきらめるのはどうかと思う。昔は中学校対抗の運動会みたいなのがあって、他校との交流もあったりしてよかった。私はいまの3校を維持してほしい。

(石井コーディネーター)

建物を建てるのに時間がかかるというのはまさにその通り。今、逗子市で築45年の小学校を大規模改修している。小学校が全部5校あるが、今の規模で建て替えると絶対余るということが分かっているので、建替えではなくて改修にしようとなった。仮設の校舎を建てたり、色々な行程をとると、設計含めて7,8年かかる。そうするとある学年は1回も運動会をグラウンドで出来ないということで、黒歴史的になる。なので、学校にとってはかなり制約がかかるので、しっかり考えないといけない。不自由な3年間を過ごしてもらうことも出てくるかもしれない。長期的に見て、南陽市全体での考えのすり合わせが必要。コロナの時に、外遊びをできなかった子供たちもいて経験が不足してしまったということがあった。

(委員自由発言)

出身が別であるが、赤湯と宮内はそれぞれ特色があっていいなと思う。子どもたちはお互いの地区を知らないことがたくさんあると思う。私も知らないことがたくさんあるので、行ったことがあるところも少ない。例えば学校が1つになったとき、いまそれぞれの学校の地区でやっているお祭りみたいなものを広く経験できるようになるのかなと思う。南陽市全体を知ることができるので、小さいときから広く見ることができて、南陽市ってどんなところって言うことができるようになると思う。自分の市の自慢を小さいときからできるということはステキなことだなと思う。

(石井コーディネーター)

地域の誇りを知るためには、ある程度、市全体のことを知ってからということになるかなと思う。

【感想】

(委員自由発言)

自分以外の色んな考えを聞いて良かった。もっと幅広く中学生とかの若い方の意見も聞きたかったと思う。

(委員自由発言)

私も自分がここで生まれ育ってないので、自分の子供に中学校時代どうだったか聞いてみた。いろいろ話してみて、こういうこと考えていたんだなということも知れたので、現役世代の子たちの話も聞いてみたかったなと思った。

(委員自由発言)

意見を言うのが苦手で、皆さんの意見を聞いて納得する部分が多かったのが、勉強になった。参加させていただいてよかった。

(委員自由発言)

中学校時代リレーの選手に選ばれた。自分のせいで負けたと思い、宮内中から赤湯まで泣いて帰った。リレーの選手は運動会を見て決めたというが、いままでなんで走り方を教えてくれなかったのかと思った。いまは YouTube があって、なんでも教えてくれる。自分で問題意識をもって、自分で考えて、調べる手段があるからどんどんやればいい。それをやるために我々ができることをやる。今は親たちも失敗をさせないようにと構いすぎじゃないかと思う。中学校時代に自分を培ってほしい。逃げるという事もあるけれども、社会に出るときに競争で勝たないといけない。そういうことも大事にしてほしいと思っている。

(石井コーディネーター)

大人は本当に失敗をさせないように、答えだけを教える。とにかく一度失敗させようとするが、大人がそれを邪魔してしまう。ちゃんと安心して、失敗してフォローできる環境が大事だと思う。

(委員自由発言)

会議に出席する前はどんな会議かなと、何を話そうかなと思っていた。南陽市の端っこの北部に住んでいて、宮内や赤湯よりも山形市の方がよくいくくらいだが、そんな中でどういう中学校生活を子どもたちに過ごしてもらおうかなと考えていた。自分たちが参画の段階で関わっていくことの難しさを実感した。コーディネーターのとりまとめが非常に上手だったので、有意義な会になった。

(委員自由発言)

中学校の統合の話聞きながら、自分にとっては年齢的にも活躍できることはないと思っているのですが、今深刻な状態になっているということを受け入れて、このままではいけないという認識を持たなければならないと感じた。自分たちの時の歯を食いしばって頑張るという環境とは違うので、今の子どもたちはそれができないのは当たり前。逃げることも勇気が必要。負けてもいいとか逃げてもいいとかもあるけれど、頑張れる人は頑張った方がいい。私もこの会議に参加させてもらって、漠然と少子化だという認識から、このままでは手遅れにあるという認識に変わっ

た。本当に重要な時期に来ているということを感じさせてもらった。孫が統合する時期になるので、本来は身近な問題だったなと気づいた。

(委員自由発言)

この会議に参加して、いろんな人の意見を聞いて良かったと思う。自分も高校で生徒会の活動をしていて、生徒総会をやったが、ちょっとやんちゃの生徒が多く、訳の分からない質問も多いが、今回は社会人やいろんな方の意見も聞いて非常に良かった。

(委員自由発言)

どんな中学校の姿が子どもたちにとって最適なのか考えることができ、有意義だった。将来教員になりたいので、自分が教員を目指す理由だとか理想とかこうなりたいということが見えてきた。高校生だからこそ持てる生徒の視点を忘れずに、どういことをしたらいいかしっかり考えていきたい。自分の意見を共有しながら、他の皆さんの意見を聞くことは非常に良かったです。そして、将来は子供たちが安心して成長できる環境に貢献したいと強く思った。

(委員自由発言)

地域のことを知る機会になって非常に良かった。沖郷地区に住んでいる日はほぼ外部の人が多く、人間関係が希薄化している。時代の流れを感じつつ地域愛を持たずにいたが、それはがっかりで済ませるのではなく、自分ごととして捉えて、何かできることがあるのではと考える機会になった。

(委員自由発言)

様々な立場で意見を述べられていて、年代もさまざまなので、それぞれの価値観があって勉強になった。私は地域で推進員として去年から活動させてもらっていて、知らないことがたくさんある中で、無作為で選ばれた人たちはほとんど初めましてだった。自分ごと化会議とは何かと思っていたが、地域のことを一緒に考えてくれる方がこんなにいるということが知れて、勇気が出た。またどこかでお会いしたり、協力をお願いしたりするかもしれない。すごく心強いと思っている。

(委員自由発言)

初めて本格的な会議に参加させてもらって、何かを進めるうえでいろんな意見や考え方もあって、それを聞いて進めていくことの大変さを感じた。来年から働く中で、難しい中でもみんなで考える重要性を覚えてもらったと思う。南陽市の強みとして、中学生がいることが何よりの特色になって、唯一無二の文化になると思う。根性があって、協調性があって、純真な心を持った南陽の子供たちが活躍する確かな未来がなによりもあって欲しいと思った。

(委員自由意見)

娘も息子もソフトテニスをやっている。中学生というのは一番複雑で大切な時期だと思う。小学生のころ私はいじめにあっていた。今から5年ほど前にうつ病になった。自殺したいという怖い思いをもって過ごしてきたが、家族という支えがあってなんとか生きている。まずつらいことがあったら、練習のときに笑えと楽しんでやろうということを書いて、勝った負けたは結果だと教えている。負けたときは指導者の責任、勝った時には子どもの努力のおかげ。過保護と過干渉はやめてくれと親に言っている。自分で自分のことをするのが当たり前。自分でできることをまず中学で教えないといけないなという思いがあった。最初に学校の統合という話がなかったので、部活の大事さを言いたいなという思いで参加した。今回参加させてもらって、こういう考えの人がいるんだなということは部活を教える身としても参考になった。

(学校教育課長)

学校教育課では、義務教育課程を担当している。中学校を卒業した後のことまでは把握できていないが、今日参加した高校生たちを見て育っているなと思い、自分の仕事に自信を持てた。

(管理課長)

建物のことはあまり気にならなかったという意見を聞いたが、それとは裏腹に学校の維持管理は本当にお金がかかるということも実感した。自分も学校教育課長と同じ意見だ。

(石井コーディネーター)

自分ごと化会議は完全にランダムで、必ずしも喋りが上手い人ばかりではない。そういった中でも、その人自身の意見を聞きたいと思いコーディネートをしている。そういった面でお手伝いができたと思っている。この後、提案書ができあがるが、それがゴールではなくスタート。これから、周りのことや、孫のことを考えることのスタートであると思う。そういう風にこの会議がそのきっかけになってもらえたらと思う。今までと他の視点をもてれば、この町が自分ごと化しているということだと思う。

(全体協議終了)

(白岩市長)

みなさんの感想を聞いてこの自分ごと化会議をやってよかったと感じる。山形県は先の衆議院議員選挙の投票率が全国一だったが、それでも6割。小さい学校では、すぐ協力者が見つかると思うが、これはさぼっていることがばれるからだと思う。こんな形で大きな都市になっていくと、投票しなくてもばれないと思ってサボるようになるといけないなと思う。行政は誰にとっても他人事ではないという事を、4回を通して、みなさんに感じていただけたと思う。これを取りまとめで、提案書を提出してもらおうが、これはあくまでも数多くある課題の1つである。町のことは一人

一人感じてくれる、いざとなったら力を貸してくれる人が増えたらいいなと思いこの会議を開催している。この会議のことを、みなさん起点で話してもらって、一緒に街づくりをする南陽市にしていきたい。この会議はどうか分からない会議で、まとめてもらえたコーディネーターの技術、人柄は素晴らしいと思う。感謝したい。